

第2章

2-3 板倉の阿弥陀様^{いたくら あみださま}にみる歴史的風致

(1) 板倉集落の沿革と概要

板倉集落は、東地域の上野出島にある集落で、石川街道と水戸街道とが交差点付近に位置する。現存する庭渡神社^{にわたりじんじや}について『西白河郡誌』に記されており、「昔板倉某といへる人の氏神なりきと云伝ふ、傍に板倉氏屋敷跡と称する地あり、今は畑となる所の字を板倉前と称するも、亦此に因るならん」（昔、板倉某という家で祀っていた神様だと言い伝えられている。近くに板倉氏屋敷と呼ばれている土地があり、今は畑となっている字を板倉前と呼んでいるのも、この言い伝えによるものか）と記載があり、地名の由来と結びついた社であることがわかる。

『東村史 上』（東村、昭和51年（1976））では、「本多忠義^{ほんただだよし}（注：第4代白河藩主）の三男忠以^{ただもち}は、浅川周辺を領地とし、白河に近い大字上野出島字板倉に居を構え板倉御殿と称し現在その跡地は畑地となって史跡として残っている」としている。



（2）歴史的風致を形成する建造物

① 阿弥陀様

阿弥陀様と呼ばれている板碑で、集会所のなかにある。以前は屋外にあったが、集会所の新築にあわせて、集会所内に移動した。左はア（梵字：胎蔵界大日如来）、中央はバン（梵字：金剛界大日如来）、右はキリーク（梵字：阿弥陀如来）の梵字が刻まれている。



阿弥陀様

記銘はなく年代は不明であるが、板碑は鎌倉時代から江戸時代初頭にかけて盛んに行われた死者の供養もしくは生前に死後の供養を営む逆修供養のためのもの

であり、上部を山形にするのも板碑の一般的な形状であり、中世から近世にかけて建立されたものだと考えられる。

また、阿弥陀様という名称は板碑の呼称であるとともに、板倉における天道念仏行事の呼称にもなっている。

② 板倉の石造物群

現在、行事が行われている板倉集会所の敷地の一角には、石造物が群をなしている。これらの石造物は、道の改修等、さまざまな理由で集会所に集められたものだと考えられ、中には江戸時代の墓石と思われるものもある。

うち記銘があり、その建立の目的が明らかなものは、天明6年（1786）の念仏供養塔（「念仏供養塔／講中女人／十三人」）と大正3年（1914）の子安観音（「板倉坪中」）がある。



石造物群の上部にろうそくを立てる

（3）歴史的風致を形成する活動

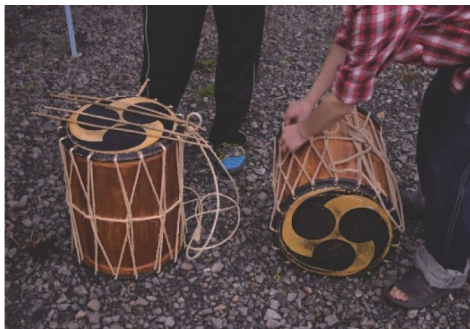
① 板倉の阿弥陀様と天道念仏

行事の呼称として「阿弥陀様」が用いられるが、これは集会所に集まった人々が、前述の板碑を拝礼することに由来する。6月の第3土曜日に行われる行事で、天道念仏と呼ばれることもある。『東村史 上』では、東地域で行われている太鼓芸を総称して、「チャッチャラッコ太鼓」と表現しており、「虫追い太鼓」とも言っている。

太陽の正常な運行を祈り豊作を祈願するという天道念仏で太鼓が打ち鳴らされるのは、全国各地で行われる虫追い（虫送り）行事において、太鼓と鉦によって稲につく虫が追い

やられることとの関連性をうかがわせる。

以前は板倉以外にも、大竹地区の天王様、石原地区の愛宕様、中ノ作地区の阿弥陀様、千田地区や形見地区の天王様、坂口地区の鹿島様、反町地区の天神様などで、同様の太鼓が行われており、各集落の青年たちはほかの集落まで出かけて行って、太鼓を叩いていた。現在、東地区で太鼓芸が伝承されている集落は板倉のみになってしまったが、各集落で太鼓を叩いていた人が参加する天道念仏保存会があり、板倉の阿弥陀様に招待されて、青年会と一緒に太鼓を叩いている。



青年会所有の太鼓



青年会と保存会

② 行程

この行事は、板倉青年会が主催する行事で、行事を行う前の週に集まって、太鼓を締めたり、接待のための買い出しに行ったりするなど、準備をしている。

当日は17時くらいに集まり、直会の準備をし、集会所内の板碑群と駐車場にある石造物群の上部にろうそくを立てる。18時前には青年会長が、阿弥陀様に拝礼する。その後、外に出て、太鼓を叩く。この太鼓はアゲダイコと呼ばれ、行事がはじまったことを知らせるものである。

天道念仏保存会の会員は、アゲダイコの音を聞くと、個人が所有する倉庫から出発して、太鼓を打ち、鉦を鳴らしながら集会所に向かう。到着すると、青年会と合流し、広場で輪になりながら、太鼓を打つ。直会を行いながら時折太鼓を打ち、保存会員や集落の人たちが帰るまで続く。人がいなくなると、シメダイコを叩いて解散する。



阿弥陀様に礼拝する住民



集落内を歩いて集会所に向かう

（４）板倉の阿弥陀様にみる歴史的風致のまとめ

天道念仏行事である阿弥陀様は、東地域では板倉を除いて中断してしまっているが、当地区では板倉青年会を中心に天道念仏保存会が支援して実施されている。

板倉の阿弥陀様は、集落の中心にある集会所のなかにある中世の板碑を中心にした祭礼として行われている。集会所の脇には、板倉の石造物群があり、近世における各種の講中とその信仰の跡が見て取れる。

阿弥陀様の行事において、板倉青年会や天道念仏保存会の会員が、昔ながらの農村景観を残す板倉集落で中世や近世に造られた板碑や石造物群を背景に、太鼓と鉦を打ち鳴らし集落内に響き渡らせながら阿弥陀様と石造物群のある集会所へ向かう様は、板倉固有の歴史的風致を形成している。

第2章

歴史的風致のエリア



3. まとめ

小峰城の城下町を中心に交錯する奥州街道・会津街道・棚倉街道・石川街道・水戸街道などの街道沿いには、それぞれ集落が形成され、現在まで発展してきた。それぞれの集落では、歴史的建造物を背景に、年中行事・祭礼が伝承されている。

表郷地域の河東田地区では、牛頭天王祭や愛宕様、天道念仏などの「河東田の祭礼・行事」が行われており、疫病除けや火伏、豊作祈願など、現代にも通じる様々な祈りが、祭礼・年中行事として太鼓芸を伴う形で伝承されている。天道念仏にあわせて行われる道切では、集落の外れに立てられる御札が、普段意識することのない集落の範囲を明示している。道切で区切られた集落は、天王館跡を中心に広がっており、各祭礼は天王館跡に祀られた牛頭天王社や白幡神社、愛宕社において行われている。

大信地域の十日市地区では、「十日市の提灯まつり」が行われている。この祭礼は、歴史的建造物である愛宕社の祭礼であり、提灯行列を伴う。提灯行列のルートは、十日市地区を一巡するものであり、街道沿いに形成された集落の範囲と重なる。また、行列の最中には、隈戸川で潔斎が行われている。集落の小路に沿って、提灯の明かりが揺れ動く光景は、街道集落と祭礼・行事とが一致して形成される歴史的風致だと言える。

東地域の板倉地区で行われている「板倉の阿弥陀様」は、白河地域の関辺郷渡地区で行われている県指定の無形民俗文化財である「関辺のさんじもさ踊」や河東田地区で行われ

ている天道念仏と同じように、太鼓を打ち鳴らすことで豊作を祈願するもので、中世の供養塔である阿弥陀様や近世の石造物群などの歴史的建造物への拝礼や蠟燭の献灯などを伴い、板倉地区を太鼓や鉦を打ち鳴らしながら練り歩く行事であり、街道集落を背景に歴史的建造物である石造物を中心として、現在も祭礼が行われている。

白河市内の街道集落においては、集落の所在する歴史的建造物を中心に年中行事や祭礼が行われており、それらの歴史的建造物が点在する各集落においては、年中行事・祭礼にあわせて打ち鳴らされる太鼓や鉦の音、あるいは集落のなかを行列を作って歩く光景などが、歴史的建造物と組み合わせあって歴史的風致を形成している。

十日市の提灯まつり
(大信限戸十日市)

至会津
上小屋
清里川
土用
至仙台
奥州街道
小田川
泉田
久田野
萱根
本沼
石川街道
田島
蕨内
深仁井田
釜子
水戸街道
至矢吹
至石川
白坂
皮籠
奥州街道
関辺
旗宿
白河開跡
番沢
金山
河東田

板倉・阿弥陀様
(東上野出島板倉前)

河東田牛頭天王祭 (表郷河東田)

街道集落の年中行事・祭礼にみる歴史的風致